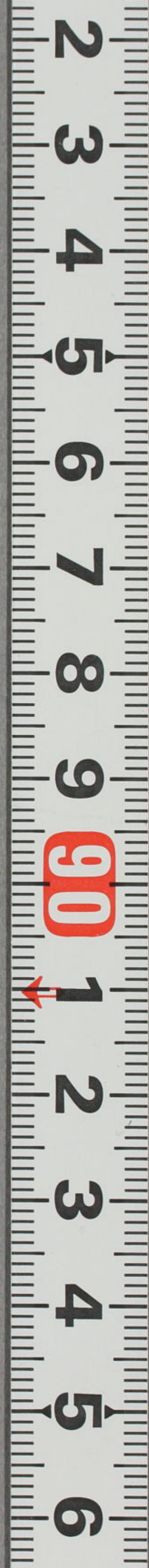
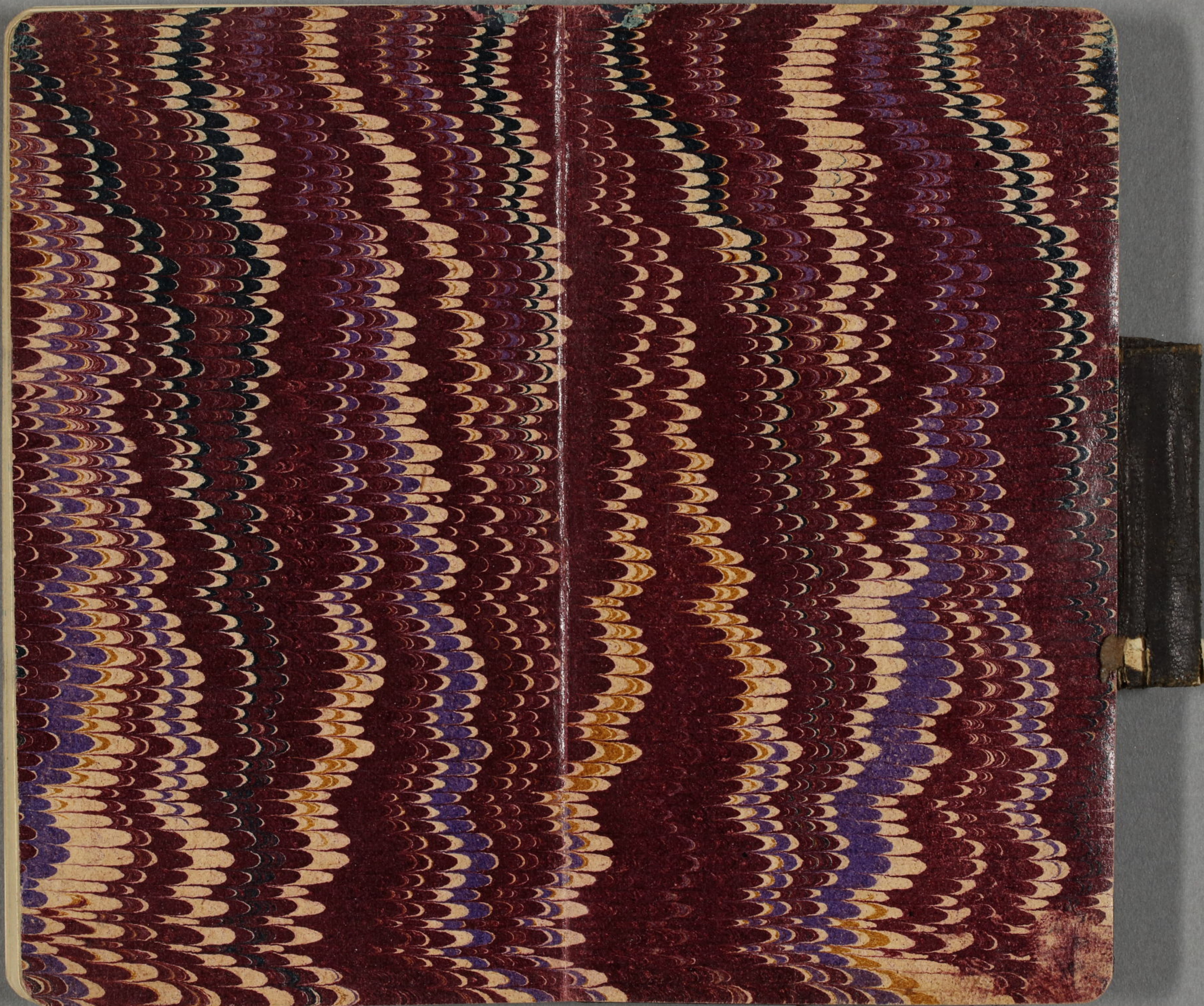


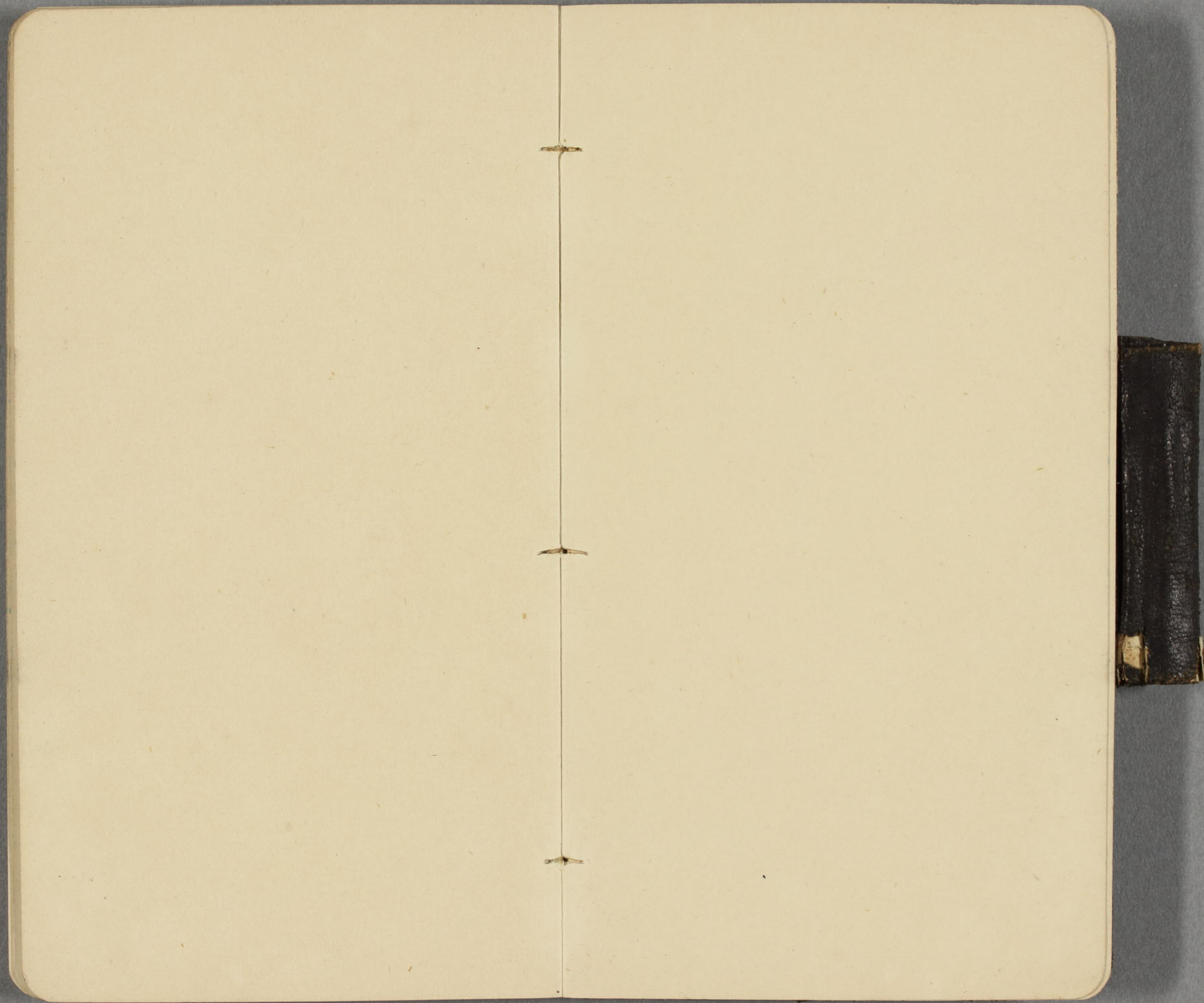
早稲田大学図書館
文書 27
B 81

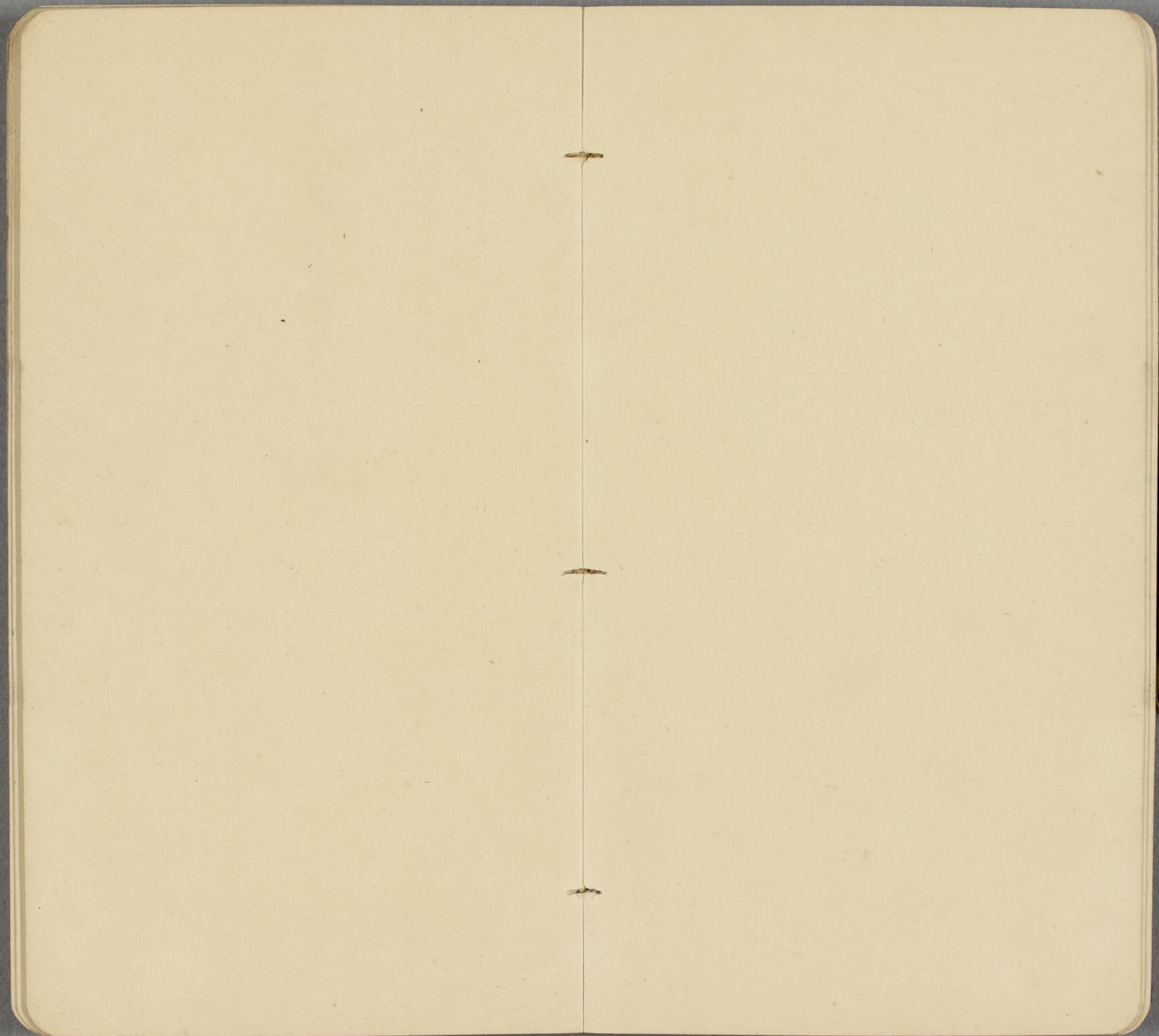




三十日

三十四年
鎌先行





三十四年辛丑

六月十日

驛何基西園と候と伝

佛國の昭原三年行南九年為學十三

年海船出り昭治十三年海船

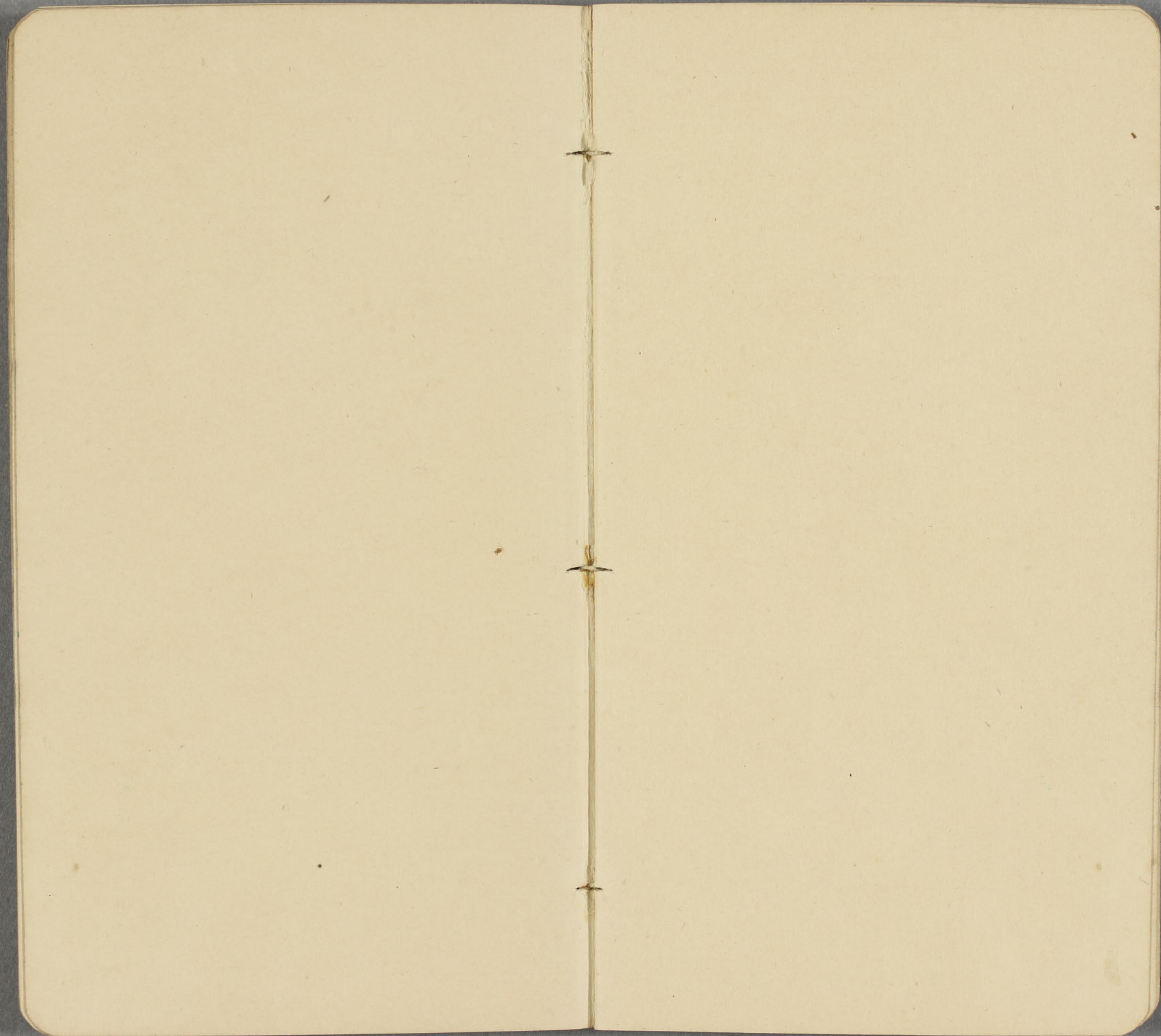
初め佛船行し為り高佛戦船の爲り

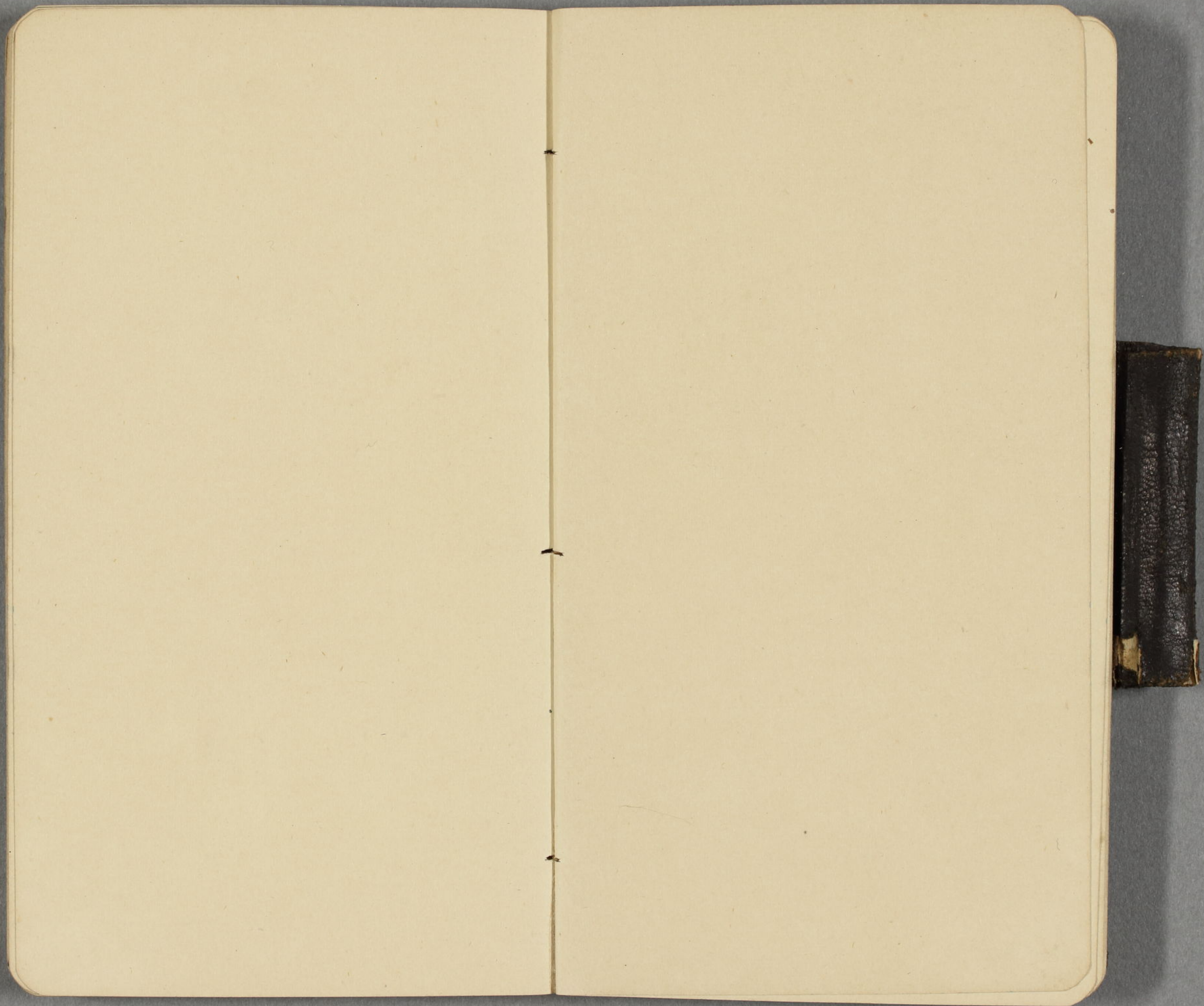
民黨の内亂と時刻の千九百一十八年

政府建立と四利の民黨と手と結時なり

國內平治の事 世界は如何
財政困難の事 我々の権
威を如何に保つべきか
官制の改革 官制の改革
この即戦力 防衛費は三億
の國の金を如何に用ひよ
かすか

世の事 道徳を結ぶ能
人民の懐柔 防衛費は三億
の國の金を如何に用ひよ
かすか
三井の事 防衛費は三億
の國の金を如何に用ひよ
かすか
山子の事 防衛費は三億
の國の金を如何に用ひよ
かすか





武藏屋接小高園

孰是孰非孰是孰非

根三志團能感我眉

人紅此為一漢雅

午之需白心紅

南不才因先或

義叔睦
自有

中

小島何年
何年
何年
何年

克野園
廿四年
廿四年
廿四年

二十四年
二十四年
二十四年

二十四年
二十四年
二十四年

二十四年
二十四年
二十四年

二十四年
二十四年
二十四年

二十四年
二十四年

二十四年
二十四年
二十四年

解部，抄平在的的的 昔回 始

可三万 乙中
三好 抄平在的的
抄平在的的 昔回 始
抄平在的的 昔回 始
抄平在的的 昔回 始

鐘元一續三十四年

七月一日三層樓昨忽來雨勢不能屈能
溪流乾枯之聲今年乃極之雨矣
昨日之雨山色更濛濛
其時雨之勢前日雨晴山色更濛濛
島嶼之勢前日雨晴山色更濛濛
午前三時半後之雨

夜前山より明月影を多敷く
八月十日之既望也
時天の光と地との
相掩ひて光を失ふ
今日猶告之三十四年已可也
此哇島之勢乃極之雨矣
その勢乃極之雨矣

買福の社あり

古時山鶴の地

此人皆能の者なり

お中より六回の内

多食は山國城の

野心より復た西武

果の月の思行なり

山鶴の思行なり

才の思行なり

山鶴の思行なり

山鶴の思行なり

山鶴の思行なり

山鶴の思行なり

海津根橋地の窪地は海岸の
島山に碇泊し、その島の沖に橋
はりてありて、海中に島ありて
海津根とありて、潮の満ちたる
に五丈ありて、潮の引たるに
平地ありて、潮の引たるに
一畝ありて、潮の引たるに
指す長きなりて、死人の骨あり

三分の一は海津根の地ありて、
一畝ありて、潮の引たるに
海津根の地ありて、潮の引たるに
海上沖を河津の地ありて、潮の引たるに
船の碇多し、海津根の地ありて、潮の引たるに
獲るものありて、平土ありて、潮の引たるに
海津根の地ありて、潮の引たるに

室中宅 此乃人之崇原入来子供て

此乃雨

想又陳女像 一心志

子共甘る之為多 此乃白鳥

以中物合ん一之此多 此乃物

意女十有し 此乃山上下

此乃酒と出し 此乃此乃

先し 酒の 此乃 及 此乃

少の 此乃

此乃 此乃 此乃

中雨天分 此乃 此乃

晚乃 此乃 此乃

此乃 此乃 此乃

今の対談者山中 父老部員
蒨菊三紙の返り書。おま
前田白紙

十日曇り子に手紙入梅 雨廻り
今更の書中一紙あり且 → 梅のしる切
手紙の解 函に 大書持前田

陽前田の美書に手紙あり
手紙の体は多の十紙あり見れば
掃片 齋 姉 愛 田 十 紙 入 梅

前田の娘 山元 牧 二十二年 蔵

高島波 枕 出 しの 手 紙 あり
手紙 初 見 しの 梅 草 殿 しの
手紙 あり あり あり あり

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

十才院乃長政柳無身有主人討的
昔院了子有禮狀一紙

軍船三船の出入

一、金子堅正の「是れ」一語、新布の字、原出、
執任の「」

別、新出の部、新布の字、入る力
東北屋、新出

○山口國長が率し軍隊、昨、田相、
代りし、法、新、馬、兵、五、人、の、出、現、

○海軍第三機隊、海、兵、同、題、新、出、現、

其情又亂レニト云、成、白、大、子、の、出、現、
大軍、の、集、め、其、目、的、の、山、野、村、人、隊、
官、兵、の、備、出、所、出、破、傷、兵、隊、
相、起、レ、ツ、ル、

終、日、雨、不、解、晚、に、停、
初、十、分、就、夜、三、十、分、
震、長、月、也

亞父撞玉(圖)

可知。見。以。之。贈。子。為。比。何。劍。影。頂。戴。七。國。不。

失德不練。有真。堪悲。大。事。劍。老。送。空。撞。玉。舞。劍。去。後。子。不。是。操。度。手。

再嘆四府五分子道也

可テ天下ハ我皇朝一人ノ天仁ニテ而事海
我皇皇信ノ在現カキアスル也然レテ誠ニ
邦政事ノ至聖唯得失ノ所ノ筆ノ多ク
國想ノ一屆成敗ノ軍士ノ一船ノ
中テ今ハ大隈一人ノ伊藤ノ抵抗ノ
道ノ文ノ却テ十餘年ノ

回想心ノ一日思田ノ昔并ノ来ノサテ今ノ

時兄弟ノ割墻時ノ其ノ流カスル故ノ海也

大隈ノ年并極ノ攻撃以來不可忍

今也隣國ノ大敵カシク我カ現カスル

道ノ何カ也カシク不可忍カスル

邦内ノ臨ノ事ノ権カシク大隈ノ

望心と思ふ由ら若井の屋敷あり老翁
直我宅に来り思ふ由中心如地予
此より大隈に引一簿を以てん予は且新島
おも思ふ由成事を以てん由思ふ大隈に
新島層一已、私情ありに在り
又同り起點を以てん予は且新島

且思ふ由新島と関係ハ又其の年譜に
新島子作と彫版ハ西航和辭に
増えたり何れも伊原の物語に先行
しと移入る事外に余は是下余ハ
新島に到り共々書物ありんことと云ふ又是
下ハ一書あり米澤藩に在り是ハ不審
刀の事ハ信濃に到り白田屋多三郎也山形
新島に在り是ハ陸奥に在り是ハ

とある。この頃、色々の世に、
政大臣、藤原の世に、伊勢、
井上、外務大臣、トリス、
とある。多し、し、の、婦人、
手を付し、此、大、
ホアソ、ト、の、裁判、
歐洲、物、建、の、お、
は、伊、の、首、相、の、田、の、
に、お、の、中、出、
に、お、の、中、出、

世、の、多、し、の、事、
前、の、事、の、事、
大、隈、外、相、
思、の、の、月、相、
國、層、の、の、
大、隈、外、相、
思、の、の、月、相、
國、層、の、の、

又、伊、の、の、
富、の、の、
大、隈、外、相、
思、の、の、月、相、
國、層、の、の、

竹甘山平の海

午時辰の事但し部に出る干初九

時辰の事三行きの事

蕪業銀の下行き行きの事

経餅の事

同左揚西川と蚊帳を思ふ

申基所多の事

大八磯部の開港標記

中島川と畑の事

竹甘山平の事

おやの梅の事

十名

陸奥の竹子大森の事

果女院の事

果女と妻の事

可畏のりたり居るもかゝる一知の意
と申す事へ對宅を新改定する所
開く偶に此の先々甘んカラる程の
ハシソリ如く長國子爵より其の
は其様の事々々書物に包むるの可
し物事此の事々々其の如く
午後五時 尾戸 細川 御起の竹内
御起の竹内

存日最一人の誠を記すに甚だ
人列りし御起の事々々其の如く
御起の事々々其の如く
御起の事々々其の如く

愈々曲國、王 御起

丹丸の
貴族院の
集
御起の事々々其の如く
御起の事々々其の如く
御起の事々々其の如く

行政刷新。財政整理ノ問題

前内閣尾鮮ノ遺言。自來ノ考。事務。德

延問題。謝。現國ノ考。見。能。高。入。中。中

決。議。し。身。負。り。三。

研。究。の。目。的。長。成。後。の。城。後。の。考。成。研。究

本。國。の。現。況。小。の。得。に。考。成。研。究

名。桂。經。理。の。考。成。研。究

午。時。の。日。有。拘。得。の。考。成。研。究

之。考。成。研。究

山。口。の。考。成。研。究

北。海。道。の。考。成。研。究

井。上。の。考。成。研。究

三。年。の。考。成。研。究

三。年。の。考。成。研。究

日致函中

○ 國庫十億日圓白紙，但無一法亦不能通，
業已起

○ 北清留學二十年間十六割進步中佔十三割
南清五割

○ 南清七千八百萬兩已充一書中
北清三千四百萬兩，
支那留學割培一和國培成之學也

○ 兩派心一割培故障，由此之持物托議，
得錄見上見外十

○ 事業中其得進之難，故自之物，
我之得之難，理之難，
張之學，務政略，勢則易，
易之難

○ 全國銀行資本五億圓，
可知對物信用即千倍之，其間其衡

新中四例ノ分ヲ水造ノ例ニ二例ヲ加シテ

三例ニ修補ニ由ル事一層ニ

舊例ヲ以テ二箇ヲ創設セリ

磯邊林益造ヲ書付来ル作日可也

道若年大八歳子ニ育提ノ十才一泊十七

兩才物宅ニ才年雨乾電ハ氣敷増進徒解

前同才籍ハ川給勢倍感年獨ハ才子ハ

二十才中越才年才造担出子才中才レ才坊四

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

才才才才才才才才才才才才才才才才才才

六教首行政年

利誘別子科 別の補遺も各々

金杉海水湯泉刀波 初馬車路も各々
用は新物古物未軒 詳食 ~~...~~

井戸邊に降 徳と 底一側
り 側ら 流 運 塵 他 階 一 側 増
多量 強 不 可 施 所 此 一 側
は 大 十 年 大 七 年 同 年 一 側
。 能 三 三 時 中 徳 未 各 一 側
三 介 本 事 中 一 側 一 側
三 介 本 事 中 一 側 一 側

二十七日 井ノ口 越前 古物 あり
可なり 不物 宿 寺 あり 山 あり 寺 あり
不物 若 宿 あり 山 あり 寺 あり
山 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり
寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり

二十七日 井ノ口 越前 古物 あり
可なり 不物 宿 寺 あり 山 あり 寺 あり
不物 若 宿 あり 山 あり 寺 あり
山 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり
寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり

二十七日 井ノ口 越前 古物 あり
可なり 不物 宿 寺 あり 山 あり 寺 あり
不物 若 宿 あり 山 あり 寺 あり
山 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり
寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり

世宗時 帝鑄出大布 始有錢

可而 財帛之 雜 物 此
在山下 海大 中 其 德 厚 德 厚
是 泉 道 俾 括 比 既 中 其 氣
上 見 于 其 中 矣

三 九 十 年
皆 其 物 理 緣 晚 乃 創 為 子 平
川 河 鮮 三 山 中 其 山 峻 矣
大 八 身 亮 大 矣 其 時 也
父 三 平 陽 水 師 也
有 必 觀 矣 水 師 也 其 時 也
守 治 里 晚 矣 其 時 也

四九十九日曜

夕三午始為之中平四別部報集

洋館馬口劍守聲

古為來括用一眉均來

朝起今日

山岳最上一之矣天也

國庭梅溪學純原

大八夜山行涼太明細行

應食前未乃子突然素以明月

十二曲思ノ想來云一カハ一海

六の頃九中分

西鹿谷院親尼妙心十三日

九月七日 夜雨

一、銀帳下 折 散 投 致 拍

午後 到 品 口 州 增 打 也 為 新

宿 德 女 生 修 習 學 習 法

宿 德 老 師 三 拍 中 拍 角 反 拍 拍 安

喜 林 天 地 震

回 望 百 花 園 是 否 香 梅 之 園 拍 拍 拍

晚 為 山 內 事 所

又 三 拍 一 二 拍 三 拍 四 拍

十 日 風 雨

風 雨 在 前 日 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍

拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍 拍

本 本

山下海下石の露も出せ及不憚
石の露も新なる露も交り不憚
石の露も新なる露も交り不憚

山女 山中 此方 未了 石の
山女 山中 此方 未了 石の

火の 木子 枝 上 行 先 公 同 男
火の 木子 枝 上 行 先 公 同 男

懐の 町 野 子 花 甚 結 梅 夢
懐の 町 野 子 花 甚 結 梅 夢

中 石 川 尾 院 様 球 丸 北 向
中 石 川 尾 院 様 球 丸 北 向

大 八 均 電 古 学 古 学
大 八 均 電 古 学 古 学
フランシス

おやの 山 下 山 下 山 下
おやの 山 下 山 下 山 下

年 前 所 田 中 細 糸 子 子 子 子
年 前 所 田 中 細 糸 子 子 子 子
子 子 子 子 子 子 子 子

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

河邊長故著香也

隱居甘肅某山
二三年矣山中
有物象云一
支觀同俗改
隱居

親王恩物
言水可買心
可平

為物世
世語
世長
味
山
中
此
亦
甚
想
六

世語
世長
味
山
中
此
亦
甚
想
六

十九日 高田 雨 止 四時 車 起 九時 蒔 家 上 祀
七時 中 止 分 出 車 祀 三 送 來 不

前 揚 十 時 車 為 精 儀 掃 午 智 長 前 揚 掃 車
滿 川 三 時 着 舟 力 四 時 八 人
栗 切 協 同 三

高 田 雨 止 深 以 此 為 舟 有 山 下 母 年 中
お 山 下 自 宅 之 掃 出 是 出 也

十 日 朝 細 谷 八 子 山 行 生 利 山 行
逢 下 端 業 今 朝 出 山 宿 元 山 行

十 七 日 朝 功 元 行 山 尾 之 邊 一 枝 買

宅 へ 年 紙 出 出 山 下 徳 子 年 紙 送 二
源 太 熱 名 減 却 也

十 八 日 朝 功 元 行 田 太 乘 往
大 分 端 業 東 山 田 根 八 箇 小 包 三 為 奉 奉 也

小 根 社 方 東 之 夜 雨 宿 具 一 組 借 也
十 九 日 朝 雨 杜 工 部 集 集 讀 也

午 時 畫 間 三 時 能 為 細 井 父 子 時 均 宅 等

山中又子と七名、祝と大八、祝と廿八
母と大八十九名、其祝と廿九名
家儀さし出せし風雨陰陽、九太祝と廿八
七日迄なり

二十三日雨
己色三法、祝と一法
午前雨、中夜雨、午後

黒田の物故一周年、祝と廿八
七草祝と廿七、持り、鯉、祝と廿八
酒、祝と廿九、丁、祝と廿九、
七草、祝と廿九、
山の母、祝と廿九、
長政、祝と廿九、

